

「食育月間」以外の取組実績
(食育月間を除く 4 月～12 月の実績)

事例タイトル 夏パル交流 2014 「黄金山サマーキャンプ」	実施主体： 小梨公民館 連携機関： PALPAL 交流世田谷実行委員会 PALPAL 交流事業岩手推進本部
目的	キャンプ中の食事を通して、食の大切さを学び、生きる力を育むとともに、旬の食材と郷土料理に触れて、食べる楽しさと感謝を学びます。
対象	地元小学生、スタッフ 世田谷区の幼児、小学生、スタッフ 気仙沼市小学生 参加人数； 95 人
場所	黄金山キャンプ場、(農) こがねファーム、千厩みなみ交流センター
活動内容	6 泊 7 日の長期キャンプを通して食事の重要性の観点から 1) 栄養バランスの取れたメニューを考えて与えます。 2) 地域で採れた新鮮な食材を利用します 3) 鶏の解体を行い、命をいただくことを学びます。 4) トウモロコシの収穫を行い、その場で生をたべたり、すぐ茹でてたべたりして、そのおいしさを体感させます。農業体験では、作業の大変さと収穫の喜びを味わいます。 5) 地元婦人会による郷土料理（おこわなど）を味わいます。 6) 世田谷の児童は、最後の 1 泊を地元農家でホームステイを行い、田舎の食習慣や食の作法を学びます。
成果	幼稚園児、小中学生、高校生など、大勢で楽しく仲良く食べて生活を共にすることで、友情が育まれ心身共に逞しくなりました。世田谷の子供たちは、田舎という異文化の体験をして視野を広げました。
課題及び今後の展望	少子化に伴い、参加児童が減少しました。また、キャンプなどのサバイバル体験を敬遠する親が増えており、参加させたくない人も増えています。食物アレルギー体質の児童の増加や好き嫌いの激しい子供が年々増えており、献立に工夫が必要になっています。

